

らじみさらダボール子育て情報



「温もりは心の拠り所」
令和4年5月25日号
板橋富士見幼稚園



手と手を繋いで

最近、親子で手を繋いで歩く姿が少なくなったように感じます。満一歳を迎える頃から一人立ちが始まり、どの親御さんも小さな手を支えるように手を繋いで歩いたことを思い出されるのではないのでしょうか。子どもが一人歩きするときのはじめの一步を、転ばないように手を繋いで ASSIST していたことと思います。



ところで、手と手を繋ぐことは、ASSIST するだけではないことを知っていますか。手は、人の心を助ける大切な役割があります。

少し話が飛びますが、人は心と心を繋ぐためにも手を繋ぎます。恋人同士は愛を繋ぐ為に手を繋ぎ、年長いたご夫婦で、時折手を繋ぎ支え合う姿を見ることがあります。

手は単に ASSIST するのもだけではなく、多様性に飛んだ役割があることに気付かされます。1歳・2歳と年齢が進むにつれ、手を繋ぐ機会が次第に少なくなってきました。それは、子どもが自立に向かい自分の意思で行動しようとするからです。

一緒に街の中を歩く時も、単に安全のために ASSIST するだけではありません。社会の適応力を育てていくために、周囲の迷惑にならないようしたり、周囲の人に気を配れるようにしたり、親子で話を弾ませながら一時を楽しむなどなど、手を繋ぐ事の意味はたくさんあります。

中でも最も大切なことは、親の温もりを伝える第六感です。これは安定した落ち着きを育てる大切な手段なのです。大人にとっても子どもにとっても、手を繋ぎ合うことは温もりを伝え合い、同じ気持ちを共有するメッセージーとなることなのです。

親子で、公園や散歩や買い物など出かけるときは、必ず手を繋いで、心を伝え合うようにしましょう。親子で手を繋ぎ一緒に歩いていると、自然とリズムが伝わり、我が子が何を考えているのかを感じることができます。是非、手を繋いで歩いてみてください。手を繋いで歩くと楽しさが伝わってきます。そんな子育てを、楽しんでみてください。

